

粗大ごみ処理施設の処理方式について

1 破碎処理方式の種類

表 1 は、主な破碎処理方式の種類とその特性をまとめたもので、各破碎機の構造により、それぞれ処理対象物に対する適性が異なります。

そのため処理方式の選定にあたっては、処理対象となるごみ質、形状、寸法及び処理の目的を勘案する必要があります。

表 1 破碎処理方式の種類と特性

処理方式		可燃性 粗大ごみ	不燃性 粗大ごみ	不燃物	プラス チック類
切断式	縦型・横型	○	△	×	×
高速回転式	横 型	○	○	○	△
	縦 型	○	○	○	△
低速回転式	単 軸	△	△	△	○
	多 軸	○	△	△	○

※○：適 △：一部不適 ×：不適

2 各処理方式の構造及び特徴

別紙 資料 4-2 のとおり

3 既設施設の状況

本市の粗大ごみ処理施設の処理方式は表 2 とおりで、複数の処理方式を組み合わせ、搬入される粗大ごみの性質に応じた処理を行っています。破碎処理されたごみは、不燃物除去、金属回収を経て、ごみ焼却施設で焼却処理されています。

表 2 既設施設の破碎処理方式

施設名	今泉粗大ごみ処理施設	葛岡粗大ごみ処理施設
処理方式	切断式（縦） 45 トン/5h×2 基 低速回転式（二軸） 30 トン/5h	切断式（縦） 35 トン/5h×2 基 高速回転式（横） 70 トン/5h

4 基本計画における検討方針

不燃性粗大ごみの処理や破碎物からの金属回収を考慮すると、高速回転式破碎機の設置は必要と考えられますが、処理対象物の性状に応じた最適な組み合わせを検討し、基本計画において処理方式を設定します。